

平成 22 年度 文化庁日本語教育委託事業

地域社会への適応・参加を重視した 日本語指導者養成講座

募集要項

聖徳大学言語文化研究所

【講座開設の目的】

先頃、文化庁から「生活者としての外国人に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案」が示され、これからの地域における日本語教育は「外国人が我が国で暮らす上で最低限必要とされる生活上の行為を日本語で行えるようになる」ことを目的とすべき旨の指針が出されました。これは、ともすれば、従来、文型の構造・意味の説明のみに時間を費やす傾向があるボランティア教室などでの指導法に、大きな見直しを求めるものとなっています。加えて、「地域の日本語教室は、外国人に、何のために、どんな日本語を教えればよいのか」という根本的な問題を再検討することを促すもの、と言ってもいいでしょう。

聖徳大学言語文化研究所では、数年前から各市の国際交流協会・公民館などで行われている日本語ボランティア教室の研修に協力し、外国人の成人・児童の日本語教育研究のプロジェクトも設置してまいりました。今までの一連の研修講座でも、先に示された問題点については検討を重ねてきましたが、今回は「外国人が地域社会に適応し、参加できるための日本語教育とは具体的にどうあるべきか」を正面から問い、その指導法についての見識を有する指導者を養成する講座を開設することにいたしました。

地域の日本語教育について、こうした問題意識をお持ちになっていらっしゃる指導者の積極的な参加をお待ちしております。

【期 間】 平成 22 年 10 月 2 日～平成 22 年 12 月 18 日
13 時 30 分～16 時 30 分（全 10 回。各回 3 時間）

【会 場】 聖徳大学 10 号館（千葉県松戸市松戸 1 1 6 9） 松戸駅東口より徒歩 1 分

【研修目標と内容】 ※日程については、別紙「養成講座スケジュール表」を参照してください。

なお、日程については、都合により一部変更する場合があります。

研修の目標

- ①文法中心の構造シラバス文型に終始せず、外国人の生活の視点に立った実用的日本語会話を効率的に指導する方法を研修する。
- ②日本語による会話を単に生活の利便に活かすというだけでなく、より積極的に地域社会に参加することが出来る会話能力のあり方を考え、その具体的指導法を研修する。

研修の内容

- ・「基本的な日常生活に支障をきたさない程度の会話能力」という段階のみをカバーする日本語学習ではなく、地域社会と本当の意味で共生し得るために必要な会話能力のあり方と、その具体的な指導法を研修する。
- ・これまでに収集してきた外国人インタビュー資料などを通じて、出来るだけ具体的な事例を検討し、地域における日本語教室の役割が、より外国人の生活を支える基盤となり得ることを実感出来る講座にする。

【担当予定講師】

北村弘明(聖徳大学教授)

山岡洋(桜美林大学教授)

立川和美(流通経済大学准教授)

加藤あさぎ(麗澤大学講師) ほか ※都合により講師変更の場合もあります。

【募集人員】 30名 (申し込み多数の場合には、書類選考をおこなうこともあります)

【応募資格】 日本語教育に関心があり、研鑽の熱意のある方なら特に資格を問いませんが、前提となる基礎的な日本語教育の知識や経験がある方歓迎。

【参加費】 無料 (初回に配付物印刷費として3,000円をお支払いください)

【応募方法】 封筒に別紙の申込用紙 (必要事項記入) と返信用封筒 (80円切手を添付し、受取人住所氏名を明記) を入れ、下記宛にお申し込みください。

(宛先) 〒271-8555

千葉県松戸市岩瀬550 聖徳大学 知財戦略課 日本語指導者養成講座係

(締切) 平成22年9月15日(水)

(お問い合わせ) 聖徳大学 知財戦略課 Tel 047(365)1111 (大代)

メールアドレス chizai@seitoku.ac.jp

※後日、受講の可否を、9月25日までに折り返し通知いたします。

※お送りいただいた申込書等は、受講の可否を問わず、ご返却いたしません。

また、書類に不備のある場合は、受講不可となる場合もありますのでご注意ください。

【オリエンテーション】 10月2日(土) 13時30分～16時30分

聖徳大学10号館

(受講が可能となった方には、後日、詳しいご案内をお送りします)

以上